

○議長（石橋英和君）順番2、5番 森下君。

〔5番（森下伸吾君）登壇〕

○5番（森下伸吾君）ただ今、議長のお許しをいただきましたので、通告に従い、一般質問を行わせていただきます。

今回の一般質問1項目めとしまして、国の2014年度補正予算の地方創生の交付金を、本市はどのような取り組みに生かしていくのかについてお聞きいたします。

景気の下支えをするための緊急経済対策を盛り込んだ国の2014年度補正予算が成立しました。この対策は消費の刺激や地方の活性化に重点を置いた内容で、自治体が地域事情に応じて柔軟に使える交付金（地域住民生活等緊急支援交付金）を盛り込んでいます。同交付金は、地域商品券の発行の助成や少子化対策への支援、起業対策などに充てられます。そこで、本市としてどのような取り組みに生かしていくのか質問をいたします。

①お得に買い物ができる地域商品券について。

②ブランド新商品の開発と販路開拓について。

③駅前活性化対策について。

④U I J ターン助成による情報発信サイトについて。

⑤人口増加対策について。

次に、2項目めになります。2015紀の国わかやま国体の準備状況についてお尋ねいたします。

本県での開催が44年ぶりとなる紀の国わかやま国体の開催がいよいよ目前に迫ってきました。昨年のリハーサル大会を終え、各競技施設の運営や整備など、これまで着々と準備

を進めてきたことと思います。そこで、現在の状況について質問をいたします。

①リハーサル大会の反省点と改善点について。

②競技会場及び練習会場の整備について。

③宿泊の受け入れ体制について。

④競技会場へのアクセス等手段について。

⑤運営ボランティアの確保について。

⑥市民を巻き込んだ国体ムードの盛り上げについて。

以上のことをお聞きいたしまして、私の第1回目の質問といたします。

○議長（石橋英和君）5番 森下君の質問項目1、地方創生交付金に関する質問に対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（笠原英治君）登壇〕

○経済部長（笠原英治君）国の緊急経済対策の一つである、地域住民生活等緊急支援のための交付金を活用した本市の取り組みについてお答えします。

当該交付金は、回復の遅れる地方の消費喚起や生活支援を目的とした消費喚起・生活支援型と地方版総合戦略の策定支援やしごととひとの好循環の確立を目的とした地方創生先行型の二つの交付金から構成されています。

消費喚起・生活支援型での取り組みについては、プレミアム付き商品券、子育て支援商品券の2事業を予定しています。

まず、地域商品券、いわゆるプレミアム付き商品券についてですが、これは市内での消費喚起を目的とするもので、本市では、橋本商工会議所及び高野口町商工会が主体となって構成する予定の実行委員会に対し補助金を

交付し、実施していきたいと考えています。

その概要は、額面が1万2,000円分の商品券を1万円で販売し、市内の小売店や飲食店で利用していただくというものです。商品券の使用期間は7月中旬から、概ね半年間を予定しています。一人当たり3万円、額面3万6,000円分まで購入できる予定です。プレミアム商品券は政府の経済対策の一環として実施されることから、金額の上乗せ分、いわゆるプレミアム分の財源が国の交付金で全て賄われます。

既に橋本商工会議所及び高野口町商工会と担当者レベルでの協議を進めており、協力事業者の募集方法や換金を取り扱う金融機関との調整について、一定の方針が決まり次第、実行委員会を立ち上げていくこととしています。この事業によって、市内の消費を喚起し、地域経済の活性化が図られることを期待しているところです。

また、子育て支援商品券については、小学生までの子どもに対し、一人当たり1万円の商品券を無料で交付することで、子育て家庭の負担を軽減するとともに、市内での消費喚起を図るものとしています。

次に、地方創生先行型での取り組みについてお答えします。まず、ブランド新商品の開発と販路開拓については、平成27年4月の機構改革により、現在の橋本市地場産業振興センター内に、はしもとブランド推進室を設置します。和歌山県、商工団体、農協からの職員を受け入れ、官民一体となって地場製品のブランド化の推進に取り組みます。

具体的には、販路開拓、販売促進のために現場に実際に出向き、営業活動を行うとともに、メディア等を利用した販売促進を積極的に行います。また、市内事業者が行う商談会、展示会、物産出店並びに新商品開発への活動を産業振興基金事業補助金交付要綱に基づき、

支援してまいります。

次に、駅前活性化対策についてお答えします。まず、橋本駅前における定期的な集客イベントの開催を考えています。例えば、地元出身の歌手によるミニコンサート、大道芸人によるショー、あるいは、朝市などを定期的に開催するなどして、本市の鉄道玄関口である橋本駅前、高野口駅前を盛り上げ、定着化したいと考えています。

また、観光案内所の移転にあわせて、駅前広場の現在の観光案内看板をLEDの大型看板に変更し、市内の各種情報、商店、製品のPR媒体として利用します。

加えて、橋本駅周辺と高野口駅周辺の両方にフリーWi-Fiのインフラを整備し、観光客をはじめとして、本市を訪れる方の利便性向上を図りたいと考えています。

○議長（石橋英和君）企画部長。

〔企画部長（北山茂樹君）登壇〕

○企画部長（北山茂樹君）次に、UIJターン助成及び人口増加対策についてお答えします。

まず、UIJターン助成については、社会動態が大きい20代、30代をターゲットとした移住定住を促進するため、若者世代の転入夫婦に対する新築住宅取得に対し補助するとともに、移住定住に関するPR看板や情報誌への掲載、また、市ホームページでの動画や写真の活用による情報発信力の向上を図ります。

また、人口増加、少子化対策としては、出会いから出産、子育てに関して切れ目のない支援を行うため、婚活支援事業や婚活・ご成婚応援補助、特定不妊治療費の一部助成、学童保育費の一部助成、中学生医療費助成の実施を行うものです。

これらの事業は、平成27年度中に策定する橋本創生総合戦略に盛り込むことを前提としており、先に答弁しました販路開拓やブラン

下推進、観光振興によるしごとの創生を行い、そして、結婚から妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援を行います。このことによって、転入促進・転出抑制・出生率の向上につなげるひとの創生に結びつき、安心して生活を営める社会環境をつくることで、人や企業に選ばれるまちの創生に取り組んでまいります。

○議長（石橋英和君）5番 森下君、再質問ありますか。

5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。それでは、再質問をさせていただきたいと思っております。

この国の補正予算に関しましては、地域によっていろいろばらつきがございます。ですので、積極的に活用するかどうかは、それぞれの自治体の判断によるということになりますので、橋本市はこの交付金をどう使うのかということで、まだ、はっきりとわかっておりませんでしたので、今回こういう形で質問をさせていただきました。今回、議会のほうでいろいろと資料を出していただいておりますので、大まかにはわかっておるんですが、もう少し詳しくというふうな形で質問をさせていただきます。

先ほどもありましたように、プレミアム付商品券につきましては、商工会議所と高野口商工会が中心になってするということでありましたが、そうすると、その商品券を買いたい場合は、確認になるかもわかりませんが、商工会議所か商工会に行って、それを購入できるということなんでしょうか。それとも、また別のところで購入ができるのか、いろんなところで購入ができるのか、まだ、これからのところもあると思いますが、その辺、具体的なことが決まっていれば、よろしく願いします。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）実行委員会のほうが最終的に詳細について取り決めて、この事業を実施してまいりますので、あくまでも予定ということでお話しさせていただきます。

販売方法については、先ほど、議員からのお話がありました窓口販売として、商工会議所、商工会、この商工団体を基本としております。ただし、国の狙いは短期消費ということでもありますので、短期間で、例えば、市民会館とか産業文化会館で、一、二週間だけ限定して販売すると、そういったことも現在検討しておる最中でございます。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。となりますと、その限られた場所ということになると思いますが、ここでは、1人3万円までが購入できるとなりますが、複数の回、そこで購入ができる場所ができますと、1人3万円までという判断といえますか、どこでそれを、1人この人はもう買ってあるのか、この人は買ってないという判断ができるのかなというところが少し疑問に残るところがあるんですが、その辺いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）ただ今、議員からご指摘がありました件につきましては、国のほうでも、非常に各地方自治体でそういう問題を提起されております。私どもとしましては、どういった形で確認してまいるか、これから実行委員会の中で十分検討していきたいと考えております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。これから、そういうところも議論になってくるとは思いますので、その辺よろしく願いをいたします。

あとは、今度は販売する側、お店のほうで、

その商品券が使えるかどうかというのは、あらかじめ実行委員会に登録をしておかないと、それを使える店でないというふうに判断されるのか、その辺はいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）現在、対象となる事業者は市内で営業して、店舗を有する全ての事業者というふうに考えております。これは各市町村によって本当にまちまちなんですが、現在、橋本市ではこういうふうな考え方を持っております。商工団体の非会員であっても、大型店舗であっても使えるように考えております。

ただ、商工団体の非会員については、この事業に参加するにあたって、協議会のほうが幾分かの費用を徴収すると考えておると聞いております。それと、大型店につきましてはある程度販売の枚数を限定させていただいて、できるだけ、中小零細のそういった商店のほうにその商品券が回るようにしていきたいというふうに考えております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。今のご説明の中でちょっと確認ですが、そして、1万2,000円の商品券の中で大型店舗に使える部分があるのか。あと、小売店で分けると、そういう商品券の中の分類をすることになるということでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）現在そのように考えております。色分けして、違う商品券をお渡ししたいというふうに考えております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）やはり大型店舗ばかりでこれを使われてしまいますと、地元の商店の喚起という形であれば、その点やはり、なかなか地元の小さな商店に潤わないというこ

ともなりますので、そういうふうな色分けをしていただくと、やはり、地元でももっと使ってもらえるんじゃないかなと思います。

内容的には、そして、全ての店舗ということですね。飲食店もということも先ほどありましたが、食べるものも大丈夫やということで、さらには、この機会だから、高級家電とか車とか、そういうふうな、いわゆるぜいたく品といいますか、高級なものにももちろん使えるということの判断でよろしいでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）基本的にそういう大型家電であったり、自家用車であったり、そういったものにもこの商品券は充てられるというふうに考えております。ただ、処方薬局とか、介護保険の自己負担等が公費によって幾分か賄える、そういった店舗につきましては対象外にしたいというふうに考えております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。これから実行委員会を立ち上げられて、その辺も議論されていかれることと思います。これと同じように商品券で、子育て支援商品券も発行されるということで、こちらは、子ども一人当たり1万円の商品券を無料で配布するということですが、この子ども一人当たりという、小学生までということでしょうか。もう一度、ちょっと確認までですが、小学生までといたら、小学生までいる家庭ということでしょうか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）そのように想定してございます。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。

特に、小学生、子どもの商品といいますか、そういうものもたくさん、このときは消費しますし、特に地元でどんどん使っていただけるということで無駄にはならないということにも思います。

根本的にこれは違いますよね。子育てとプレミアムの場合ですと、子育ての場合は無料で交付ですから、多分、送られてくるということで考えてよろしいでしょうか。あとは、プレミアムのほうは購入しにいかないといけないということに、ちょっと、同じような商品券ですけども、手に入れ方というのは違うということでもよろしいでしょうか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）これについてはまだ事務段階、きっちりまだ詰まっていない状態でございます。ただ、考え方としては、まず、ご案内する、それから、来ていただくというふうな手順になるのかな。例えば、交付券を対象の方に送付して、来ていただいてお渡しすることになるのか、そこらあたりは、ちょっと事務方、これから詰めていきたいと考えております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。これからということですが、できれば、もうこの際ですから、配布していただくのが一番、やはり、取りに行く、買いに行くとなると、そこでやはりなかなか面倒くさいという方もいらっしゃると思いますので、それが消費につながらないということにもなりますので、趣旨としましては、やはりここは交付していただいてというふうにも考えております。この両方も商品券でありますから、もちろん、額面の商品を買ったときに、お釣りがなんか出てきた場合は、お釣りは返さないということでもよろしいですか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）基本的にお釣りを返すということは考えておりません。できるだけ商品券を全て使っていただくということが消費喚起につながると思っております。やり方としては、500円の商品券を束でお渡ししようと思っておりますので、500円単位では必ず使えると考えております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。これからということもありますので、だいたい今、聞かせていただいたところが、特に聞きたかったところではあるんですが、このプレミアム付き商品券に関しましては、日本リサーチ総合研究所の藤原主任研究員はこのようなにも述べていますが、「今までの過去の現金支給の給付型とは違い、今回は住民による購入が前提となることによって、今までとは決定的に違うものであり、自治体の工夫次第ではより高い費用効果が生まれる」というふうにも言われております。

ですので、今回の商品券の発行を通して、自治体はこうした地元産業の活性化に積極的にかかわってほしいというふうなことも述べられておりますので、このプレミアム商品券を通して、しっかり地元の、また喚起にも役立てていただきたいというふうに思います。

一つ目の商品券に関してはこのあたりにしまして、次のブランド新商品の開発と販路開拓についてですが、ブランド推進室の場所が地場産業振興センターの2階というふうにかかれておりますが、現在、この2階といいますが、あその場所が、もう2階で工事をするようになっておったと思うんですが、この辺は工事終了して、もういつでも推進室設置できるような状態なんではないでしょうか。できていないとなりましたら、どこかにまた設置されるのか、その点いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○**経済部長（笠原英治君）**年内に入ってから工事着手しまして、1階部分の従来の裁ち寄り処の部分と、2階の事務所になる部分の改修工事を進めております。現在95%ぐらいは進捗しておると考えております。あと、重機等の搬入については、年度内中に全て納める予定でございますので、4月からは予定どおり、ブランド推進室をこの事務所に設置できるというふうに考えております。

○**議長（石橋英和君）**5番 森下君。

○**5番（森下伸吾君）**4月からということでは、職員をここにも配置して、商工会議所と商工会からも職員を受け入れるということでありましたが、だいたい何人体制をお考えなのか。また、内容的には、販路開拓の営業をどんどん進めていくということでしたら、営業が中心で、開発よりも営業に力を入れていく部署なのか、その辺いかがでしょうか。

○**議長（石橋英和君）**経済部長。

○**経済部長（笠原英治君）**壇上の答弁でもお答えさせていただきましたが、和歌山県のほうから出向1名、商工団体として、橋本商工会議所から1名、高野口町商工会から1名、JA紀北川上から1名、市からは今、予定では、正規の職員が3名、都合によって臨時職員1名、この体制でこのブランド推進にかかわっていきたいと考えております。

主な業務に関しましては、今、議員からお話がありました販路開拓、これが一番重要な業務でありまして、それ以外に産業振興基金事業の振興をしていきたいというふうに考えております。本当にやる気のある商工業者、農業者に対して、物質的な支援、マンパワー的な支援を積極的にこの部署がやっていきたいというふうに考えております。

あと、販路開拓に関しましては、実際、現場へ出向くだけではなくして、メディア等も利用しながら、そういった広告PRもしてい

たいというふうに考えております。

○**議長（石橋英和君）**5番 森下君。

○**5番（森下伸吾君）**ありがとうございます。今、部長から、メディアも使ってということでありましたが、具体的にそのメディアに関して、もしビジョンがあれば教えていただければと思いますが。

○**議長（石橋英和君）**経済部長。

○**経済部長（笠原英治君）**やはり、テレビ番組とかラジオ番組、それと、本当に発行部数の多い雑誌とかに取り上げられると、一気に反響があります。先だって、ある番組で、ごぼうのお漬物をテレビ番組で放映したところ、今までそんなに売れていなかったんですが、非常に全国から注文が殺到しまして、もう今現在、半年間、その商品がない状況で、半年待ちになっているようです。そういったところでできるだけかかわっていけるような状況づくりを、県なんかと調整しながら、具体的に進めていきたいというふうに考えております。

○**議長（石橋英和君）**5番 森下君。

○**5番（森下伸吾君）**ありがとうございます。確かに、テレビ、雑誌、すごく効果は大きいと思いますが、無料で取材をしてもらえるのであれば、これはありがたいことなんですが、やはり費用がかかってくることもありますので、このあたり、やはりなかなか費用面でできる範囲が決まっていると思いますので、そのあたり、今はインターネットを使ったその辺のネットでのしっかりPRも重視していただければというふうにも考えます。その点もしっかりと取り組んでいただければと思います。

さらに、ここのブランド推進室の考え方をしまして、橋本市に今ある農業とか商業から開発をして、それを売っていかうとお考えなのか、それとも、全く新しいものを開発して、

それを売っていかうと考えていらっしゃるのか、その辺の方向性いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）両方の側面から支援していきたいというふうに考えております。具体的に、産業振興基金を使った事業の補助金の採択要件として、商品開発事業、それと、地域ブランドとして創出していく事業、こういったことがあります。それと、6次産業化によって新しい加工品なんかを開発していただく事業、こういったものについては、現在あるものも含めて販路開拓を見出していったり、販売促進していくというそういう事業に関して支援していきたいというふうに考えております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）両方の側面からやっていくということですので、そのあたり、よろしく申し上げます。特に、今この地域にある埋もれている、そういったお宝といえますか、我々では気づかないような、しっかりした資源もあるとは思っていますので、しっかり、そういうところをほり起こしてやっていただければと、それをしっかり商品として売っていただけたらありがたいなというふうに思います。

徳島県の上勝町の有名な葉っぱの事業はありますけども、ああいうものはやはり、地元におればなかなか気づかないものの、それをよそに持っていけば高価で売れるということもありますので、そういった面も、いろんな分野の方が今、7名から8名集まって、ブランド推進室を立ち上げるということなので、そういったいろんな観点から進めていただけたらと思いますが、反面、やはり、いろんなところから来ますから、それをまとめていくのがすごく大変じゃないかなと思います。リーダーシップをとっていく人がしっか

りしていかないと、みんなばらばらになって、方向性がばらばらになるんじゃないかなという危惧もいたしますので、そのあたりも、リーダーシップをとっていただきたいというふうに思いますし、この辺は、ブランド推進室に関しましては市長の思い入れが高いところではありますので、その辺も市長からも、しっかりのご指導いただけたらと思いますので、その辺よろしくお願いをいたします。

次に、駅前活性化についてですが、PRイベントにつきましては、いろいろ歌手を呼んだり、大道芸人を呼んだりということでありましたが、どれだけの期間、今年度だけなのか、それとも、開催期間は毎月やったり、何カ月にもいっぺんとか、その辺の具体的なところ、もしあれば、教えていただければと思います。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）この議会3月補正提案で、平成26年度事業として提案させていただいております駅前のこういったイベント事業につきましては、全て27年度に繰り越しされていく事業であります。これについては、地方創生の交付金で全て賄えるようになっております。28年度からの事業につきましては、新しい策定計画の中で、また、委員さんに十分検討してもらいながら、盛り込んでいきたいというふうに考えておりますので、経済部としては定着化した内容で継続して進めていきたいというふうに考えております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。やはり、こういうPRイベントになりますと、よそから、市外からも来ていただかないといけませんし、若い方々の活力ということもここは大事になってくると思いますので、市でも若い方々にしっかりとかわかっていただいて、そのイベントを成功させてもらい、これ

が定期的なずっと続いていくものであれば、それがまたしっかりと集客につながっていくのではないかとこのように考えますので、その点もよろしく願いをいたします。

あと、LEDの看板につきましては、具体的には、電光掲示板といいますか、文字だけが出てくるような電光掲示板なのか、それとも、動画なども流れるようなものなのか、その点、いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）現在、駅前広場にある観光案内板に、LEDの大型看板を設置する予定にしておりますが、大きさは、幅が2m、高さが1m20の非常に大きなものです。こういった画面には、文字だけではなくして、それぞれの観光情報であったり、事業者のPRであったり、そういった媒体を全て映像として流せるような、そういう形をつくってきたいというふうに考えております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。しっかりとLED、駅前ですので目立ちますので、広告媒体としても使用できると思いますので、しっかりそのあたりでもアピールしていただきたいというふうにも思います。さらには、パンフレットなども新たにつくると、作成するというふうになっていきますし、私も平成26年6月の議会で提案させていただいたスポーツツーリズムのガイドブックなども、ここで作成していただけるということになっています。ですので、しっかりと、また、その辺、アピールをお願いしたいと思います。

あとは、Wi-Fiに関しましても、橋本駅と高野口駅に整備されるということで、このあたり整備されてもなかなかそれが、その駅で今、整備されましたよということをアピールしないと誰もわかっていただけないということもありますので、その辺のアピールも

しっかりとやっていただきたいと思いますが、その辺いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）Wi-Fiの整備につきましては、現在のところ、橋本駅前と高野口駅前を考えております。橋本駅前には、1箇所ですべてのアンテナを設置してまいります。高野口の駅前としては、今、産業振興センターが新しく4月から変わってまいりますので、駅から産業振興センターまでの間、2箇所三つのアンテナを設置して、広範囲なWi-Fiエリアにしていきたいというふうに考えております。これらについては、Wi-Fiが使えますというマーク、オリジナルのものか、既存のものかそういったものをつくって、初めて来ていただいた方にもわかるようにPRしていきたいというふうに考えております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。広範囲でやっていただけるということはありがたいことですが、特に、観光客の方、外国の方にとっては、やはり、通信手段としては、インターネットを介しての通信手段というのは非常に重要視されますので、橋本市の駅前と高野口の駅前にはWi-Fiが設置されていますよということも、海外で、海外の方々にもしっかりとアピールするためにも、ネットでのアピールとか、そのあたり、ホームページやフェイスブックを使ってでも、そのアピールをしっかりとやっていただきたいというふうに思います。

次に移りたいと思います。4番目のUIJターンの助成ですが、この中で、転入を増やすための、転入新婚新築住宅取得補助を行うというふうにも書かれております。これは従来、3年間やっていただいた新婚世帯住宅取得補助にかわるものだと思いますが、この詳

しい内容が、もし決まっておれば教えていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）今回の転入夫婦新築住宅取得補助金といいますのは、平成24年度から26年度まで3カ年実施してきました新婚世帯住宅取得補助金を検証した上で、制度を見直したのが、転入夫婦新築住宅取得補助金でございます。平成27年4月1日から平成30年3月31日までの3年間に登記されました新築住宅が対象となります。それから、夫婦のいずれかが40歳未満、それから、平成27年4月以降に夫婦双方が転入した場合に交付の対象となるということにしております。それから、その条件といたしまして、転入前の1年間は橋本市に住民登録がないことを条件としております。それから、補助金については、一軒当たり50万円とさせていただいているところでございます。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。新婚世帯の補助のほうは、たしか40歳未満で、結婚して何年間という期限が決まっておったと思うんですが、今回はそれは外されるということによろしいでしょうか。

○議長（石橋英和君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）そのとおりでございます。今回は、新婚して3年間という要件を外させていただきました。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。ということになりますと、より門戸が広がったといいますか、使う方が広がったということになると思います。市外から市内に転入した人が増えると人口増加につながるということです。前回の内容を踏まえて、今回さらに精査して取り組んでいただいたというふうにも考えております。ですので、また、

こういう形でしっかりPRをしていただきたいんですが、定住促進のPRも看板をつくるというふうには、ここにも設置を書かれています。このあたり、どこに設置して、どのようなものになるかがもし具体的に決まっておれば、よろしく申し上げます。

○議長（石橋英和君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）現在、橋本バイパスの坂の途中に看板がございまして、この看板を電光表示に変えることによりまして、市の人口増加、それから、少子化対策の施策の情報を発信していきたいと。それと、行事ですとか、イベント等の情報も発信することによってPRをしていきたいと、かように思っております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。ちょうど橋本バイパスの看板といいますと、24号線から371上がっていくところの坂の途中にある、ようこそ橋本というあの看板やと思いますが、あの看板を、そしたらリニューアルするということになって、今度は電光で、動画なども流れるということでもあります。ですので、すごく目立ちますし、媒体としても効果的だと思いますので、そのアピールも、内容も、ハード面もいいものであれば、ソフト面しっかりいいものにしていただければというふうに思います。

あとは、5番目の人口増加対策についてですが、婚活事業も今もやっておりますが、これからも同じような内容で商工会議所のほうに委託をされるのか、その点いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）企画経営室長。

○企画経営室長（上田力也君）今回計上させていただきますのは、従来の商工会議所のほうへ委託している事業に加えまして、ちょっと視点を変えまして、単なる男女の出

合いを提供するというものではなくて、少しイベント形式にして、その中で橋本市の魅力を知っていただこうと、いわゆる観光地、それから、スポーツ施設であるとか、あと、グルメ、そういったところも体験してもらいながら婚活のイベントをしようというふうを考えておまして、これは実行委員会形式として、声をかける範囲につきましても、橋本・伊都のみならず、お隣の河内長野市、それから、五條市、現在、三市協でいろんな取り組みをいたしておりますので、そちらのほうにも声をかけた中で実施をしていきたいと。実行委員会形式ということで、できれば、本市の若手職員であるとか、あと、市関連の各種団体に声をかけて、そういった若者目線のイベントを企画していきたいという経費を盛り込んでいただいております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。たしか今年度もイベント的な婚活事業も少しやっていたかなと思います。ちょうど似賀尾池でヘラブナの体験をしながらということもやっていました、ごめんなさい、隠谷池ですね。あそこでもやっていたと思いますが、あいったイベントを絡めてということだと思います。

さらには、若い方々の発想をどんどん入れてということもありますので、このあたりは、官民一体になって、しっかり若手の方もどんどん、もちろん、結婚を対象にされているのは若手の方なので、そのあたり、若手の方の発想をしっかり入れていただきながら、より成婚率を高めていただきたいと思います、今現在、この婚活事業によって、成婚応援補助金も出ておりますが、これで成婚したというカップルは何組ぐらいありますでしょうか。

○議長（石橋英和君）企画経営室長。

○企画経営室長（上田力也君）この事業は今

年度で4年目になるんですが、結婚に結びついたカップルは、6組の方が成婚をしたという結果をいただいております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。今までの内容をさらに精査しながら、より良い婚活事業になるように、またよろしく願いいたします。

以上で、大きな大項目1番を終わりたいと思います。

○議長（石橋英和君）次に質問項目2、紀の国わかやま国体の準備状況に関する質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（北山茂樹君）登壇〕

○企画部長（北山茂樹君）2015紀の国わかやま国体の準備状況についてのご質問にお答えします。

一点目のリハーサル大会の反省点と改善点ですが、昨年実施した競技別リハーサル大会終了後、競技ごとに和歌山県及び競技団体、並びに本市の3者による反省会を開催し、反省点と改善点について協議しました。総括としては、各競技会において細かなところを除き、概ね良好であったと評価をしていただきました。ただ、ソフトボール競技会場においては、一般観覧者の動線が悪かったため、売店などへの人の流れが少なかったとの指摘がありましたので、売店出店者及び競技団体と打ち合わせを行い、本大会では会場配置の修正を行います。

二点目の競技会場及び練習会場の整備についてですが、競技会場では、4会場のうちソフトボール競技会場の南馬場緑地広場グラウンドとバレーボール競技会場の紀北工業高等学校体育館の2施設を整備する必要があります。南馬場緑地広場グラウンドについては、グラウンド表層部が悪化しているため、良質

土を5cm上乗せする計画であり、施設管理者である教育委員会において、平成26年度12月補正予算にて工事費を計上し、先月、工事発注をしたところです。また、紀北工業高等学校体育館については、壁面に取り付けられたバスケットゴールが競技運営上支障となり、一時撤去する予定であります。残りの2競技会場については、現状のまま使用可能であり、整備は不要です。

次に、練習会場ですが、バレーボール競技は市内の小・中学校体育館9施設、県立高等学校体育館1施設、本市の体育館1施設の合計11箇所を、サッカー競技は、市内の中学校グラウンド1施設を、ソフトボール競技は、本市のグラウンド1施設を利用することとなっています。これら全施設については、原状のまま使用可能であり、整備は不要です。

三点目の宿泊の受け入れ体制についてですが、平成25年度において、和歌山県が共同企業体である配宿センターと委託契約を提携し、県が主体となって全競技にかかわる配宿業務を行っています。本市開催競技の選手・監督は、バレーボール競技とソフトボール競技が高野山の宿坊を、サッカー競技は市内の紀伊見温泉紀井見荘と奈良県橿原市の橿原ロイヤルホテルを利用されることとなっています。また、各競技の役員については、市内のホテル、ルートイン橋本を利用することとなっています。

四点目の競技会場へのアクセス等手段についてですが、主に自動車を利用しての来場を想定していますが、交通機関を利用して来場される方には、ソフトボール競技会場を除き、橋本駅から各競技会場へのシャトルバスの運行を予定しています。ソフトボール競技会場については、最寄り駅を南海高野線学文路駅と設定しており、同駅からは徒歩で来場していただく予定です。

五点目の運営ボランティアの確保についてですが、平成25年10月から募集を開始し、本年1月末日現在で、個人登録者178名、グループ登録51グループ518名、合計696名の方々に登録をいただき、当初の公募者数である200名を大幅に上回っています。登録をいただきました皆さまに心より御礼を申し上げます。登録いただいた全ての方々にいずれかの業務に携わっていただく予定です。

六点目の市民を巻き込んだ国体ムードの盛り上げについてですが、平成24年7月に日本体育協会理事会において、第70回国民体育大会が和歌山県で開催されることが正式決定された以降、本市では国体開催を市民の皆さんに知っていただくため、市内各所で開催されるイベント等に、きいちゃんや中学生で構成するジュニアPR隊も参加してPR活動を行っています。今年はいよいよ紀の国わかやま国体が開催されます。今までの通常のPR活動に加え、開催200日前、100日前の節目でのPRイベントや灯火イベントなどを開催し、1人でも多くの市民の方に参加していただき気運の醸成を図ってまいりますので、議員の皆さまにおかれましても、国体成功に向けご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

○議長(石橋英和君) 5番 森下君、再質問ありますか。

5番 森下君。

○5番(森下伸吾君)ありがとうございます。着々と準備を進めていただいております、ありがとうございます。順番にまいりますと、1番のリハーサル大会の反省点に関しまして、いろいろと出てきたと思いますし、それに対して改善をやっていくということでもありますので、本番に向けて、その改善点をしっかりと踏まえて成功させていただきたいというふうに思います。

2番目の競技会場に対しましても、南馬場

に関しては、新しい土も入れるということでもあります。練習会場はそのまま使用できるということでありましたが、練習会場と競技会場を、多分、選手の皆さんはバスで移動されると思いますが、結構離れているんじゃないかなと思います。

例えば、練習会場でウォーミングアップ、しっかりと汗を流して体をほぐした後、また、バスに乗って移動するということになれば、また、アップをし直さないといけないんじゃないかなというふうな危惧もいたしますが、そういうふうな要望といいますか、競技団体の方々と要望、そういうふうなお話し合いもされていると思うんですが、そういった要望などは競技団体のほうからは上がっていませんか。移動の距離が長いとか、試合会場の近くで練習をしたいと、ウォーミングアップをしたいということであれば、例えば、サッカーであれば、グラウンドの中に、中にといいますか、運動公園内にどこか駐車場とかで少し整備をして、ウォーミングアップをするというようなことも考えられないのかということもあるんですが、その点いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）競技団体との現在までの協議の中では、そういう声は上がってきておりません。といいますのが、各チームともバス等で来られると思いますので、その移動についても、自ら用意したバス等で移動されると、かように思っております。

それから、サッカー競技のアップ場のことについてですけども、競技団体とこれも協議した結果ですけども、現在のサッカー競技場の両サイドでアップができるということでございますので、団体の中ではその問題はクリアできたかなと思っております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）競技団体との協議の中でそのような、団体との中でそういう協議になっておるといふことであれば、まず問題ないのかなというふうに考えます。

3番目の宿泊体制、受け入れ体制ですが、バレーとソフトの選手に関しては高野山の宿坊でいいということでもあります。全て、その宿坊でおさまっておるといふふうに考えてよろしいのでしょうか。

○議長（石橋英和君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）配宿ですけども、配宿については先ほども答弁いたしましたように、今、県が主体となって全競技の配宿をしているという状況でございます。本市の開催するバレーボール競技とソフトボール競技の選手につきましては、高野山の宿坊で宿泊できるということになってございます。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。以前、私も、平成23年の9月に宿泊に関して一般質問をさせていただいたときには、公的施設の一時的な転用なども考えられますということだったんですが、それが、今回計画では、それはしなくてもいけるということであろうかと思えます。ですので、サッカーなどは紀伊見荘のほか、県外の橿原のほうのホテルも使うということで計画されているということだと思います。

次の、競技会場へのアクセス等ですが、ソフトに関しては学文路駅から歩いてもらうと。そのほかの会場に関しては、橋本駅からバスが出るということで、これはピストン輸送という形でしょうか、それとも、時間を決めて。これからだと思いますが、その辺の計画、もしあれば、教えていただければと思います。

○議長（石橋英和君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）そのとおりでございます。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ピストン輸送ということで、特に一般の方、たくさん来られると思いますので、やはり、橋本県立体育館までといいますか、あそこの会場まで歩いて行けというのは、なかなか坂もありまして大変だと思いますし、あの道をぞろぞろと歩くのも、やはり、危ないと思いますので、そういうシャトルバスを出していただけるというのは、ありがたいことだと思います。

すいません、時間もないので、次、5番目に行かせてもらいますが、200人の予定に関してボランティアは700人集まって、今現在、登録していただいている。本当に橋本市民の方の関心というのは高く、それは登録していただいてありがたいことでもあります。ですので、200人のところ700人ですから、予定していた場所といいますか、配置をうまいことやらないと、ボランティアに行ったけども何もすることがなかったということであれば申しわけないと思いますので、そのあたりの配置をうまいこと考えていただきたいと思いますが、その点のお考えがありましたら、いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）200人を募集したところ、約700人も参加していただいたということで、私ども非常に、市といたしましては、ありがたく思っております。せっかくのご厚意にやっぱり応える必要があると思っておりますので、どういう形でかかわっていただくかというのは、まだきちっと確定はしておりませんが、今後、全員の方がいろんなところでボランティアに参加していただくということを検討してまいりたいと思っています。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。最後のムードの盛り上げですが、特に、私は

小学生の子どもとかが国体に接することというのは大事だと思います。ですので、学校とかでも、この辺、アピールしていただきたいと思うんですが、そういった国体に向けてのアピール、教育委員会側で、もしお考えとかあれば、教えていただけますでしょうか。

○議長（石橋英和君）教育長。

○教育長（小林俊治君）国体も近づいてまいりました。それぞれののぼりであるとか、また、花壇であるとか、そういう形の中で子どもたちが参加していく、自分たちも紀の国国体に参加しているという、そういう参加の姿勢を貫くためのいろんな形で取り組みを進めていきたいと思っています。

まだまだしていきたいことはございます。例えば、案としましては、国体のマークをみんなでつくっていくというふうな取り組みもありますし、参加するという、子どもたち一人ひとりが参加していくという、そういう実感を体感できるような取り組みを進めていきたいと思っています。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。特にやはり、子どもにとっては一流のプレーを見るというのは、すごく子どもたちにとっては、貴重な体験だと思います。国体に来る選手というのは一流の企業の選手などもたくさん来ますので、そういったプレーを見ることによって、将来、橋本市からそういった次のスポーツにたけた、また、子どもたち、スポーツ選手が誕生するかと思いますので、子どもたちもしっかりとそのあたり、会場に来てもらえたらいいというのが私の実感です。

特に、リハーサル会場、私も回らせて見させていただいて、まだまだ思ったよりも来ていただけていないんじゃないかなというふうにも思いました。ですので、子どもに言われれば、親は連れていきますので、やはり、子

どもたちが、この国体会場に行きたいよというようにもしっかりアピールしていただければと思います。その後、200日前イベントとか、100日前イベントも開催されるということですので、この内容もしっかりと市民を巻き込んで、橋本市全体で盛り上げて、成功させていきたいというふうに思いますの

で、その点、我々もしっかりとご協力させていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（石橋英和君）5番 森下君の一般質問は終わりました。